

資料編

1. 策定経過

年月日	事項	
平成 20 年 2 月 25 日	幹事会	検討委員会・推進委員会・地域懇談会について
3 月 10 日	幹事会	地域福祉計画と地域福祉活動計画の一本化について
3 月 21 日	幹事会	専門部会の設置について
4 月 9 日	幹事会	業務委託内容について
4 月 21 日 5 月 12 日 5 月 29 日 6 月 16 日	幹事会	今後のスケジュールについて
7 月 14 日	幹事会	アンケート内容について
7 月 23 日	まちづくり市民会議	地域福祉計画について
8 月 13 日 8 月 21 日	幹事会	アンケート内容について 第 1 回策定推進委員会について
8 月 28 日	第 1 回策定推進委員会	正副委員長選出、計画の概要説明、アンケート調査の検討
9 月 25 日 ～10 月 10 日	アンケート調査	一般市民（20 歳以上） 4,000 人 中学生（2 年生） 1,302 人
9 月 30 日	幹事会	地域懇談会について
10 月 15 日	まちづくり市民会議	専門部会の設置について
10 月 20 日	幹事会	第 2 回策定推進委員会について
10 月 24 日	第 2 回策定推進委員会	地域懇談会・専門部会の開催について
11 月 4 日 ～11 月 30 日	地域懇談会	24 小学校区で懇談会 ・地域の課題について 延参加者数 261 人
12 月 8 日 12 月 22 日 平成 21 年 1 月 10 日	幹事会	専門部会の内容と進め方について
2 月 2 日	幹事会	第 2 回・第 3 回専門部会の進め方について

年月日	事 項	
1月20日 2月15日 2月20日	専門部会 (生きがいづくり・社会参 加に関する部会)	地域の課題に対する解決策について 部会員 103人 延参加者数 197人
1月22日 2月16日 2月23日	専門部会 (子どもに関する部会)	
1月21日 2月21日 2月28日	専門部会 (助け合い・おもいやりに 関する部会)	
1月23日 2月17日 2月24日	専門部会 (安心・安全に関する部 会)	
1月24日 2月18日 2月27日	専門部会 (健康に関する部会)	
3月 9日 3月13日	幹事会	
3月23日	まちづくり市民会議	計画素案について
3月25日	第3回策定推進委員会	計画素案について
4月23日	幹事会	計画素案について
5月 8日	第4回策定推進委員会	計画素案について
7月 1日 ~7月29日	パブリックコメント実施	
8月31日	第5回策定推進委員会	計画最終案決定 → 市長へ報告

2. 地域懇談会及び地域福祉計画策定推進委員会専門部会の結果

(1) 開催経過

■地域懇談会

開催年月日	校区名	参加人数	開催年月日	校区名	参加人数
平成20年11月4日	四郷	9人	平成20年11月22日	宮山	3人
平成20年11月6日	浜郷	8人	平成20年11月23日	小俣	8人
平成20年11月7日	有緝	12人	平成20年11月23日	明野	6人
平成20年11月8日	城田	10人	平成20年11月24日	大湊	7人
平成20年11月8日	上野	4人	平成20年11月24日	御蘭	6人
平成20年11月11日	神社	16人	平成20年11月25日	北浜	14人
平成20年11月12日	豊浜東	6人	平成20年11月26日	中島	3人
平成20年11月14日	豊浜西	11人	平成20年11月27日	明倫	18人
平成20年11月15日	二見	18人	平成20年11月29日	佐八	19人
平成20年11月17日	東大淀	16人	平成20年11月29日	進修	6人
平成20年11月19日	早修	16人	平成20年11月30日	修道	9人
平成20年11月20日	厚生	12人	平成20年11月30日	今一色	24人

■専門部会

部会名	開催年月日	
	回数	開催年月日
生きがいづくり・社会参加に関する部会	第1回	平成21年1月20日
	第2回	平成21年2月15日
	第3回	平成21年2月20日
子どもに関する部会	第1回	平成21年1月22日
	第2回	平成21年2月16日
	第3回	平成21年2月23日
助け合い・おもいやりに関する部会	第1回	平成21年1月21日
	第2回	平成21年2月21日
	第3回	平成21年2月28日
安心・安全に関する部会	第1回	平成21年1月23日
	第2回	平成21年2月17日
	第3回	平成21年2月24日
健康づくりに関する部会	第1回	平成21年1月24日
	第2回	平成21年2月18日
	第3回	平成21年2月27日

(2) 意見

地域懇談会及び専門部会での意見・アイディアは、「第4章 施策の展開」の中に抜粋して掲載されていますが、ここでは今後の具体的な地域での取り組みの参考とするために、全ての意見・アイディアを「みんなのまちの計画（伊勢市総合計画）」第4章生活・健康・福祉に掲げた23の将来像と関連付けし、5つの分野に分類して掲載します。（できる限り原文に近い形で記載させていただきました）

I 生きがいづくり・社会参加

将来像	課題	解決策	
就労を望む高齢者に働く場があるまち	高齢者がどんな仕事を望んでいるかを知りたい →自分が選べるようになればいい	シルバー人材センターの拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センターに登録されている人へ働く場の紹介 ・シルバー人材センターの事業拡大 ・人材センターの機能拡充（一般企業での雇用は難しい）。話し合う場をセンター内につくる ・今までの技術をいかして働くことのできるシルバー人材センターの拡大 ・シルバー人材センターでの人材管理と有効活用
		自治会による就労支援	<ul style="list-style-type: none"> ・老人の生きがいとして地域で仕事を創設する（要援護予備者が要援護者を介護する） ・各町の老人会へ働く場の紹介 ・高齢者が情報交換できる場を提供する ・三郷山、墓地、公民館の管理運営など、町内でできる仕事を自治会で斡旋する。自治会にそういったシステムをつくる ・自治会の協力 ・自治会の財産管理に地元の高齢者を活用する ・家の近くで高齢者が集まれる場所づくりをして、そこで行うことができる仕事を提供する
		企業としての取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・企業、高齢者の雇用に関する情報提供 ・自宅で行うことができる仕事を提供できる機関や企業をつくる
		有償ボランティアとしての高齢者の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの支援 ・子育て、学童保育（放課後児童クラブ）でパートやアルバイトでサポーターをする ・仕事（有償ボランティア）最低賃金以下の仕事の登録、情報提供
		行政による情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所・支所に高齢者の雇用相談の場を設ける（伊勢市役所の中に高齢者のためのコーナーをつくる）
		ハローワークによる支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の相談コーナーを設置する ・高齢者用の求人情報（パソコン不可。大きい文字で） 広報に入れる
		就労するための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤が必要な場合に送迎する ・在宅就労を進める ・移動に負担 → 空家など集まる場所を設定そこに企業から仕事を選ぶとか自宅でできる仕事を提供してもらう

将来像	課題		解決策	
高齢者が生きがいを持って活動できる場があるまち	交流の場や機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・老人が楽しく交流できる場がない ・新しい公民館がほしい ・集会場がない 自治会内にほしい ・お隣でも、別の班だと交流がない ・高齢者がサークル活動に参加するきっかけづくり ・公園がない ・スポーツ施設が少ない 	場として	<ul style="list-style-type: none"> ・空家等を利用して住民がいつでも集まれる場所をつくる ・高齢者の外出習慣ができるようサロンを作る ・学校での地域の学習の場を利用する ・老人会の活用や町内会への働きかけ。子どもの日や敬老会に参加できる組織 ・地域の方々に施設を開放しようという動きがあり、場を確保する（施設行事に主婦の発表など。もっとPRして施設に来てもらう） ・公共施設のロビー等で休息できる場を設ける（お茶が飲める、トイレがある） ・各町にある喫茶店に集う。コーヒーなどを飲み交流をする ・公民館、自治会に参加できる場の確保 ・地域開放型サロン、施設の創設 ・子どもや高齢者、障がい者などの交流の場づくり ・公民館の活用（無料で使用できるとよい）
			機会として	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みのラジオ体操にみんなが参加する ・小学校から施設へ訪問し交流する活動を増やす ・施設の行事への参加。園行事の時のボランティア活動（趣味の発表や得意の分野の披露） ・自治会、公民館等で作品展や発表会をして仲間づくりをする ・小学校別、年齢別のスポーツ交流をする ・各種補助メニューを利用して活動を推進する ・小学校の空き部屋を利用して高齢者の学級を作る年齢別・地域別・趣味別などに分けて子どもにもいろいろ伝えることができる ・趣味を発展させて自分達で起業 おばあちゃんのお店とか→高齢者の就労につながる ・敬老会などのイベントをもっと広げる
			情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館などの公共施設地域活動の場の提供、使用料の減免 ・趣味のサークルを紹介するといった情報提供や仲間づくり ・福祉施設を地域の交流の場としてアピールする ・行政等の情報提供 ・外国等の先進事例の発掘・情報提供
				<ul style="list-style-type: none"> ・送迎方法の検討 ・子ども会、障がいのある人との交流 ・ボランティア活動に参加する ・地域別による介護事業者の選定・効率化

将来像	課題		解決策	
高齢者が生きがいを持って活動できる場があるまち	地域活動、社会参加したい人への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館の講座が少なくなった ・時間を持て余している人がいる ・ボランティアに参加したい 	人をつなぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の老人会等と子どもと一緒にできる行事を計画する ・防災訓練などに積極的に参加する ・出前教師（ボランティア）小学校と高齢者の交流の拡大 ・コーディネートの役割が大事 ・学校より高齢者個人に子どもの見守り支援の要請をする ・一緒にゲームをするなど、知的障がい者との交流 ・場所の提供、資金の提供、コーディネートする人がいる（コーディネートは責任のある人がやるべき）
		<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の店「えがお」で手作り製品を販売するなど、手作り品ショップをつくる ・実例：お茶・お花・着付け・詩文学・スポーツなど、団塊の世代（高齢者）が小学校に出前教師（鳥羽市と二見町でやっている）学校から頼まれてボランティアでやっている。小学校の活性化にもつながる。自分の能力や趣味や経験を使って有料（シルバー）又は無料（ボランティア）でやる。行政から仕向ける 	情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統文化(カンコ踊り)のPR強化 ・チャンネルアミーゴを活用してのPR ・高齢者向けのミニコミ 趣味や仲間づくりの情報を掲載し各戸へ配布 ・老人会活動に積極的に参加できる場にする。運動会を通じて情報提供を受ける ・老人会活動に積極的に参加できるように、連合会から情報提供をする
			具体的な活動として	
障がいのある人が社会参加しやすいまち		<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス・おかげバスがなく、作業所に通えない ・1回600円のタクシー券はあるが、高額で使いづらい ・おかげバスについては、利用しやすいことが大事である ・一人でも多くの人に参加していただくためには、輸送の手段がなければならないと思う ・市内の路線バスが少ないため必要な時間帯に利用できない ・公共の場が必要であると思う ・障がい者には軽度、重度、視覚、聴覚等さまざまであり、障がいに応じた施策が必要である ・障がい者を見守れる地域、町内、隣保の組織づくり、システムづくりが必要である 	ハード面	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が移動しやすい方法があること ・障がい者をサポートする人がいること ・移動方法など、障がいに応じたサポートを ・介助の必要のある障がい者には介助者がつくようにする ・交通網、インフラの整備 ・古い施設や歩道のバリアフリー化 ・バリアフリーが整っている ・既存のものを工夫して、利用する

将来像	課題	解決策	
障がいのある人が社会参加しやすいまち	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者団体には9つの団体があるが、他の団体との交流ができていない 	障がい者団体同士の交流	<ul style="list-style-type: none"> ・他の障がい者団体との交流が少ないため、交流の機会をもち交流をする
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者に対する理解ではなく、障がいを理解するところからはじめるべきである ・視覚障がい者は杖があるが、難聴者はわかり難い ・難聴者のシンボルマークなどの一般の方は知らない人が多い ・障がい者が気軽に取り組めるような施策が必要である ・予算的には難しい面がある。仕組みづくりと資源の活用を考えていかなければならない ・社会福祉協議会の施設を使った事業の展開が必要である 	交流から理解へ	<ul style="list-style-type: none"> ・行政による社協への支援を行う ・いせトピア、福祉センターの講座を利用、参加する ・自助を応援しやすい施設を集中させる ・市民に受け入れられやすい場所を自治会単位につくる ・生活必需品をつくりだすような環境づくりをする ・一般の人に障がい特性を周知することにより、どう手助けが必要かわかるのではないかと ・障がいへの理解を支援する側が学んでいく ・安いコンサートチケットなど、社会参加支援を行う ・手を差し伸べる
障がいのある人に働く場があるまち		働くための支援	<ul style="list-style-type: none"> ・書面での情報提供をしてほしい ・情報提供など、障がいの種類に応じた支援 ・最低賃金を下回った形で雇う方法の検討 ・自立を伸ばすのであれば、最低賃金を補償するようにする ・企業への働きかけ。まずは企業へ最低賃金適用除外申請から取り組む ・ジョブコーチ、または職場に指導・見守りしてくれる人がいるとよい ・賃金は生活のために。働きは生きがいのために ・ハローワークへの働きかけ
	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者が働いている企業は印刷、針灸マッサージなど自営業が多い。重度の方は小規模作業所に通っている ・働く場所づくり・拠点づくり ・就労の訓練をしているが、受け入れてくれる仕事場が少ない ・雇用できる場所づくりが必要である 	働く場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場として、健康関連センター、情報関連センター、食品生産関連センター、衛生関連センター ・農業等の事業者と連携して働く場を広げる ・会社が障がいのある人を雇用できる支援を行政にしてほしい ・一時的に人手がほしいときに紹介、コーディネートできる資源
		情報・広報	<ul style="list-style-type: none"> ・実態がわからない。理解されていない。また広報もされていないので、一般の人へ情報・広報する

将来像	課題		解決策	
障がいのある人が生きがいを持って活動できる場があるまち	交流の場や機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい公民館がほしい ・集会場がない 自治会内にほしい ・お隣でも、別の班だと交流がない ・公園がない ・スポーツ施設が少ない ・就労と福祉は対立するか ・個人情報との関連がネックになっている ・雇用者が障がいの重度をなかなか情報として出しにくい ・障がい者が各自で出来る生きがいの場、生活づくり ・障がい者が出やすい環境づくりが必要である ・店に車椅子が入れるような環境づくりが必要 ・隣り近所の支えあいと環境づくり ・趣味を取り入れた仲間づくり ・ほめる事が大切である 	支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性・老人等の特性を把握する ・ショッピングや散歩にしやすい環境をつくる ・自分ができる能力、自分でできる趣味、自分もっている興味、自分もっている経験、自分もっている感覚。共助センター（ボランティア） ・介助ボランティアを登録してもらう ・障がい者を支援するボランティアを登録するシステムを構築する
			参加しやすい環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・空家等を利用して住民がいつでも集まれる場所をつくる ・夏休みのラジオ体操にみんなが参加する ・「まちづくり」隣近所から親しく付き合い、まち全体に広げる ・交流の場を設定する。音楽や踊り、絵画などのサークルに誘う ・民謡踊り等で和気あいあいと楽しく参加できることをする ・障がい者の利用できるスポーツ施設がないので開放していく ・障がいのある方への理解を深めるために、障がいの体験学習をする ・町内の夏まつり等への行事の企画から参画していく ・障がい者の体験コーナーをつくる
	その他①生活様式の変化によるまちの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・働く意欲のない4,50代 ・団塊の世代の人たちはどれほどいるのか？今後何をされるのか？ ・結婚しない人の増加 ・80歳以上の高齢者の増加 ・町内に若い人がいない 	/	
	その他の働く場の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・若い人のための働く場が必要 ・母子家庭の就労先がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・働く場所を創設する 	

II 子ども

将来像	課題		解決策	
家庭での子育てを地域のみんなで支えるまち	地域の支え手の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守りをする人が少なく、負担が大きい ・通学パトロール等にPTAの参加が少ない 	登下校	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時や子どもの集る場所などで、日常に根ざした見守り、声かけを行う ・子どもの登校時、犬の散歩を兼ねて子どもの見守りや声かけを行う ・登校、下校時に家の前のように呼びかける ・日常の生活に結びついた見守り ・犬のワンワン隊の袋を持って散歩中に見守り ・見守り活動 子どもが受け手ではなく、主体となる活動に結びつける
		地域の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・両隣の人との親しさをつくる ・向こう三軒両隣の5軒で信頼と協同のコアグループをしっかりとつくる ・組(10~15軒)の近所づきあいを密にする ・町単位(自治会)の中でリーダー(世話役)を育てる ・小学校区範囲でのネットワーク作りを確立させる(体制づくり) ・小学校区で主任児童委員にチーフになってもらい支える 	
		地域の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の会の立ち上げ(土日を中心とした活動) ・地域の子育てサークルの活性化 ・近所同士で子育てサークルの拡大に努める ・町内会・サークル・ボランティア等が連携し、組織を立ち上げ活動していく ・町内会から活動を始めよう(遷宮のお木曳きをきっかけに・・・) ・両隣りの見守り運動を伊勢市内で実施したらどうか。できることからやってみよう ・生まれる赤ちゃんに、地域のみんなが“おめでとう”と言える運動をやってほしい 	
	地域での子育ての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに注意しにくい ・子供虐待が気になるが直接声が掛けづらい ・父親達のつながりが少ない ・伊勢市内を自転車で走っていると、こども達は挨拶ができる(車社会が原因である) ・近所付き合いをしなくても、インターネット等で情報を得られる社会であるのが問題である 	顔見知り	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域の行事には積極的に参加し、父母と顔見知りになっておく ・学校の公開授業に積極的に参加し、子どもと顔見知りになっておく ・学校と地域が交流できる環境整備が重要 ・親に対してのあいさつから声かけを行う
		(課題内容同上)	人のつながり	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の希薄化 ・コミュニケーションがとりやすい歩きや自転車での移動を増やす ・親同士の連携が少なく希薄化になってきている ・地域の活動に協力が無い。地域の見守り活動をどうすべきか ・地域ぐるみで声かけしやすい環境をつくりたい
	少子化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが少ない地区なので、お母さんたちの横のつながりが弱い ・少子化に地域で取り組むには 	・赤ちゃん訪問への民生・児童委員の同行	

将来像	課題	解決策	
子どもたちが地域で楽しく遊び学べるまち	<p>子どもの遊び場の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全で自由に遊べる場の確保 子どもの遊べる公園がほしい 公園が中途半端で球技ができない 外で遊ぶ子どもを見なくなった 公園の草刈り問題 習い事が毎日のようにあり、自由な時間が殆どなく可愛そうである 自宅付近に安心して、遊ぶ場所がない 子どもに遊ぶ楽しさを親が教える必要がある 学力も大事だが、適当な遊びを教え、社会に通じる人作りも大切 公園が地域の交流の場になるような環境整備が重要（高齢者～幼児まで） 気軽に遊べる（三世代交流）場所が必要 いつでも気軽に公民館等を使いやすいようにしたい。また、そのような環境整備も大切 	遊び	<ul style="list-style-type: none"> 公園の中の見通しをよくする、注意書きをわかりやすくする、バリアフリー化等、子どもの遊び場の安全を守る 週に何日か学校のグラウンドを利用する 空いている土地を提供してもらう 町内の遊び場マップをつくる 子どもが遊ぶ公園 子どもが遊ぶことが大切であることを理解できる体験 子どもが楽しく遊ぶ体験 子どもが遊ぶだけでなく、地域の人々が集まってきておしゃべりなどをする場となるようなところがあるとうい 公園の見守りボランティアの結成 遊びによってコミュニケーション能力を養う 公園のレイアウトの工夫 支援事業を活用し、公園遊具を更新する みんなが集まって長時間楽しく遊べる公園をつくってはどうか 助成金を有効活用し、公園整備等に使ってほしい（募金）
	<p>子どもとの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 世代を超えての交流が出来る機会が必要 あいさつのできない子どもが多い 様々なイベントはあるが、利用方法を知らない人が多い（情報源） 	グループづくり	<ul style="list-style-type: none"> GIVE&TAKE（子どもと親はサービスを受けるだけでなく地域の活動を行う） 子どもと大人が共有して、世代間交流を図るグループをつくる 子どもの自助を引き出すグループサークルを立ち上げる。大人は下支えに徹する 子どもの意見を聞く。子どもが住みやすい環境づくり
		場の提供	<ul style="list-style-type: none"> 情報をうまく周知できる方法を確認する（新たなシステム） 制度や事業の利用が低い（広く知られていない啓発の見直し） 公民館、コミュニティセンターなどの施設を子ども、高齢者、各世代が集まれる場所にす みえこどもの城「移動児童館」を活用し、イベントを開催 ハード面だけでなく、ソフト面で日常的に関わることができる人をつくるための拠点 学校施設の有効活用 人の交流できる場作り（拠点作り） 地域の社会資源（小学校・中学校等）の有効活用（グラウンド・体育館など）
		マップづくり	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが町内を歩く機会をつくる（家と学校だけを歩くのではない） 町内の遊び場マップをつくる

将来像	課題		解決策	
楽しく遊び学べるまち	子ども会活動の活性化	<ul style="list-style-type: none"> 子ども会の益踊りがなくなった 親子会活動（子ども会）に活気がない 子どもの話し合いの場がない 	<ul style="list-style-type: none"> 親が子どもを連れて参加できる行事の見直し 子どもを引き出す行事を考えよう。子どもを呼べば大人は付いてくる 子どもが楽しく遊べる行事やイベントを増やす 子ども達のアイデアを叶えてあげるイベントをしたい（花いっぱい全国大会） 自分達で地域を歩き、地域を知る（地域探検隊）。学校の通学路以外で 子どもが楽しめる地域イベントの開催 	
安心して子育てを産む・育て、子育て支援も充実しているまち	子育て拠点や交流のための拠点の確保	<ul style="list-style-type: none"> 共働き夫婦のための乳幼児受入施設が必要 学童保育が地区にない 児童館がない 	参加（つながり）	<ul style="list-style-type: none"> 家にいる教員・保育士がないか探して、地域で活躍してもらう場の提供 お母さん同士のつながりの場 誘い合って子育て支援センターに参加する
			拠点	<ul style="list-style-type: none"> 細かいニーズにこたえられる場づくり 地域で拠点づくりをする 建物等はその後のメンテナンス等も経費がかかりすぎるのでスポット的なサポートをする 保育園・児童館の充実。子どもを預け安心して働ける環境づくり 児童館、学童クラブ等に「子育て相談」を付加させる（専門職員の配置） 世代間交流する機会と場の提供を充実する（専門家も入れる）
			企画	<ul style="list-style-type: none"> 病児保育の充実 子育て中の母親たちが集える企画を自分たちの周りに増やす 若いお母さんたち同士が連絡を取り合い、保健師との相談会に一緒に参加する
			アイデア	<ul style="list-style-type: none"> 補助も含めて、子どものいる家庭に特典をつける 町の組織である自治会の活動に子育て支援を義務づける 家にいる人で教員や保母の資格をもっている人を探す こんにちは赤ちゃん事業 家庭へ挨拶に行く際に近所にも紹介するようにする
			サポート	<ul style="list-style-type: none"> 行政や民生児童委員の家庭訪問による1歳半、3歳児健診に来ない母子のケア 子どもが生まれる前からサポートをする 母子手帳を交付するときに住居近くの民生児童委員や保育園の紹介をする 生まれたときに保健師とともに民生児童委員等の近所の方も訪問をする 母子手帳を発行する際に、地域の資源（店・サロン・民生委員など）を紹介するシステムづくり 虐待防止の対策として、孤独・孤立をサポートできる体制を地域でつくる 地域の自治会に子育て支援を義務づける 地域（自治会）と行政が密接に連携し、虐待防止等にケース会議等を実施したらどうか
			行政のサポート	<ul style="list-style-type: none"> 家庭にこもっている親子の支援 近所で気軽に保健師に相談できる体制づくり 行政情報のリンク 虐待のボーダー世帯へのケア
子育て支援に関する情報の不足	<ul style="list-style-type: none"> 就学前の子育て支援の実情を知りたい 	情報	<ul style="list-style-type: none"> インターネットで市内の子育てに関する具体的な状況を流す 子育て情報を周知するシステムづくり（支援センターの開館情報など） 県の子育て情報紙である「つくしんぼ」の市民版をつくり、月1回発行する 冊子などによる子育て情報の提供 	

将来像	課題	解決策	
子どもたちが安心して健やかに成長していけるまち	<p style="text-align: center;">子どもの安全の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守りをする人が少なく、負担が大きい ・通学パトロール等にPTAの参加が少ない ・登下校の送迎バスがほしい ・おかげバスを子どもの下校時間に運行してほしい ・防犯と“のびのび”のバランス ・子どもが遊びをつくりだせない ・大人が危険から守りすぎているので、子どもが自由に遊べない環境である ・公園の利用制限がありすぎ、自由に利用ができない（野球など） ・社会情勢が安易に制限をしすぎである。子どもが育たない ・地域の文化を通じて子どもに伝えることも重要である 	子どもの視点に立つ	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでも禁止してしまう体制の改善 ・子どもの視点に立つ体制 ・責任を問われる内容 ・小さな単位で話し合う場をつくり、地域で子どもを育てる
		地域	<ul style="list-style-type: none"> ・下校時や子どもの集る場所などで、日常に根ざした見守り、声かけを行う ・公園の中の見通しをよくする、注意書きをわかりやすくする、バリアフリー化など、子どもの遊び場の安全を守る ・親同士のつながりや情報交換、学校からの家庭訪問等により、虐待を防止する ・子ども同士の集団登下校や、親が近所を一緒に歩いてしつけを行う等、登下校時の安全を守る ・登下校時、バス停ごとにグループ分けし、上級生が下級生の面倒を見る ・PTAだけでなく、住民全体がかかわっていけるように学校と地域との交流をさらに深めていく ・子どもに出会った大人たちがまず声かけを行う ・放課後に子どもたちが群れて遊べる場所をつくる ・「今はこんな時代」と考えない ・地域の文化を子どもに伝承する ・子どもが自由に集団で遊べる場を地域が提供する ・小さい単位で話し合いをはじめ、解決を図る（学校・保護者・地域）
		学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援ボランティアを充実させ、地域の結びつきを強化する
		エンパワメント	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものエンパワメントを養っていく ・子どもを守りすぎてもいけない ・子どもたち自身がつながりを強める ・子どもが自分自身を守る ・自分でやれるように身につけさせる ・子どもたちが考える力を養う
		情報	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と連絡をとり合い不審者情報を共有する ・不審者情報は伊勢市内全域にメール送信する
		防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩や自転車利用の人に防犯グッズを支給する ・外へ出かけるときは「防犯」とわかるように帽子やチョッキを着用する ・子どもに出会ったときの声かけ運動
		交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で交通安全教室を開催する ・「歩く人」優先を復活する ・交通安全教室は運転手を行う ・自転車道の整備